

環境省

産廃排出量 3億8596万t

2019年度実績、前年度比微増

環境省はこの度、2019年度の全国の産業廃棄物の総排出量が3億8595万5000tとなり、前年度比で約700万t（約1・9％）増加したことを発表した。総排出量約3億8595万5000tのうち、中間処理されたものは約3億527万8000t（全体の79・1％）、直接再生利用されたもの

は約7611万4000t（同19・7％）、直接最終処分されたものは、約456万2000t（同1・2％）となった。また、中間処理された産業廃棄物約3億527万8000tは、約1億7322万8000t減量化され、処残量は再生利用（約1億2745万5000t）または最終処分

（約459万5000t）された。合計では、排出された産業廃棄物全体の52・7％に当たる約2億356万9000tが再生利用され、2・4％に当たる約915万7000tが最終処分された。前年度に比べて、最終処分量が約3万t（約0・3％）増加した。業種別排出量では、

電気・ガス・熱供給・水道業が1億100万7000t（排出割合26・2％）、農業・林業が8126万2000t（同21・1％）、建設業が7971万2000t（同20・7％）、パルプ・紙・紙加工製品製造業が3367万8000t（同8・7％）、鉄鋼業が2596万4000t（同6・

7％）——などとなっている。産業廃棄物の種類別排出量では、汚泥が1億7084万1000t（排出割合44・3％）、動物のふん尿が8078万8000t（同20・9％）、がれき類が5893万t（同15・3％）——などとなっている。